

令和4年度 学校評価報告書

学校番号(02) 長崎市立(日見中)学校

1 教育目標

感動：努力なき者に成功無し、成功なき者に感動無し
 創造：平和で豊かな社会を創る力を身につけさせる
 協調：必要なときは、大同団結

2 学校経営方針

「挨拶・返事・笑顔」日本一の学校を目指し、
 ①節度ある生活態度と中学生としての品性を身につけさせる。
 ②基礎基本の学力の定着と、確かな学力の向上を図る。
 ③自らの生命を守るために、危機予測能力、危機回避能力を身につけさせる。
 学校・家庭・地域の信頼構築に取り組み、「日見中学校だからできる」ことを考え、チャレンジする学校

3 重点目標

- ①基礎学力の定着と表現力育成
- ②基本的な生活習慣の確立
- ③豊かな心と自律の精神、健やかな体の育成
- ④学校・家庭・地域との親和

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91	85	100	教育目標の達成や明るく楽しい雰囲気という項目の結果が良いことから、教育活動が一定の成果を得たと考えられる。生徒の100%達成は嬉しい限りである。一方、校務分掌の在り方や校務縮減、業務改善については、マイナスイメージが拭えない。校務の見直しやスリム化を図る必要がある。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	100	94	79	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			62	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			50	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	87	67	十分とは言えないものの、生徒は挨拶をよくするようになった。また、評価は全体的に高めではあるが、低めの項目もあることから、例えば、相談に親身になってくれない、いじめ対策ができていないなど、少数派ではあるが、助けを求めているも、手を十分にさしのべられていない生徒とそれを危惧する保護者の存在が見える。定期的または適時の面談や観察・アンケート等による問題の発見を確実にする目や生徒や保護者の心に届く指導や援助ができる生徒指導体制及びその実行力の向上を図りたい。
		挨拶をよくしている	95	84	60	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	91	87	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	84	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	95	87	83	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	89	96	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94	85	92	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	96	91	92	分かりやすい授業については、高い割合で達成できているが、学習に困り感のある生徒及びそれに悩む保護者の存在を忘れないようにしたい。家庭学習の習慣が身に付いていないという自覚は、三者で一致している。家庭学習の習慣付けのためには、生徒に学習の目的をはっきりさせ、そのための生徒自身による自己分析とその対策立案が必要である。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94	84	89	
		家庭学習の習慣が身に付いている	69	55	18	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	96	80	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		88				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	97	95	93	昼休みは、ほとんどの生徒が運動場で活動している。地域のロードレース大会では、受験前の3年生を除くほとんどの生徒が参加して、体力の向上に努めた。衛生管理に関しては保健だよりや掲示物を通して、情報を提供している。食育については、栄養教諭の指導を各学年で実施している。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	87	78	46	
		体力向上に努めている	73	82	77	
	食育	食に関する教育活動を行っている	92	95	79	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	96	86	100	コロナ禍における健康面に対する安全管理には注意を払ってきた。また、ホームページの更新により、情報の発信に心掛けた。地域のロードレース大会に向けては、土曜授業にすることで、学校全体で取り組むことができた。研修については、年間計画に基づき、学べる環境づくりを心掛けたが、生徒の表現力育成に関しては、方法論や評価の方法、またその実践に課題を残した。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	86	91	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	86	88	79	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			69	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	84	84	73	安全点検、安全衛生推進会議で、報告があった内容に対しては迅速に対応した。職場環境の改善については、職員の声を聴き、改善や改革が必要に応じて行っている。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			73	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

1【成果について】

・学校を楽しんでいると感じている生徒の100%を達成した。また、職員も、学校教育目標の達成に向けて、積極的に努力したことが100%達

成からうかがえる。特に今年度は、平和学習を中心とした講演会等のさまざまな取組が功を奏したと考えられる。

・様々な問題が見え隠れした今年度ではあったが、生徒、保護者、職員、地域もおおむね肯定的な評価をしており、教育活動をおよ

そ健全かつスムーズに行うことができたと言える。

2【課題及びその対策について】

・生徒、保護者、職員が共通して課題と考えている項目は、家庭学習の習慣と、学力の向上である。学習に対する動機付けや学習指

導要領の「思考・判断・表現力」の育成に向け、継続的な指導や援助が必要である。

6 学校関係者評価

紙面による回答から。

- ・先生の御指導や子供たちの成長を見せていただき、感謝しています。
- ・地域コミュニティーも始まり、学校の御協力をいただきながら、活動に参加していきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・家庭学習の習慣ができていないのが気になりました。取組の指導については、保護者とも連携し、引き続き努力してほしい。
- ・先生方はコロナ禍や部活動の顧問や進学指導など、ご苦労されていると思います。職場環境の改善や働き方改革が進むことを願っています。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・コロナ禍における地域や保護者との連携は難しい面があるが、学校だよりの発行や安全安心メールの活用、ホームページの更新や内容の充実を図るなど、学校の教育活動を報告することにより、今後なお、一層の連携を進めていきたい。
- ・基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の定着については、保護者との連携に加え、小学校との連携も密にしておくことで、改善を図ってきたが、まだまだである。今後は、表現力の評価の在り方や具体的な方法の研修などにより、表現力育成を軸にした教育活動を活性化させたい。
- ・働き方改革や業務の改善については、教育のあるべき姿や仕事のやりがいなどの理想を念頭に置きつつ、年間計画の見直しなどにより、仕事環境の改善を進めていきたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。